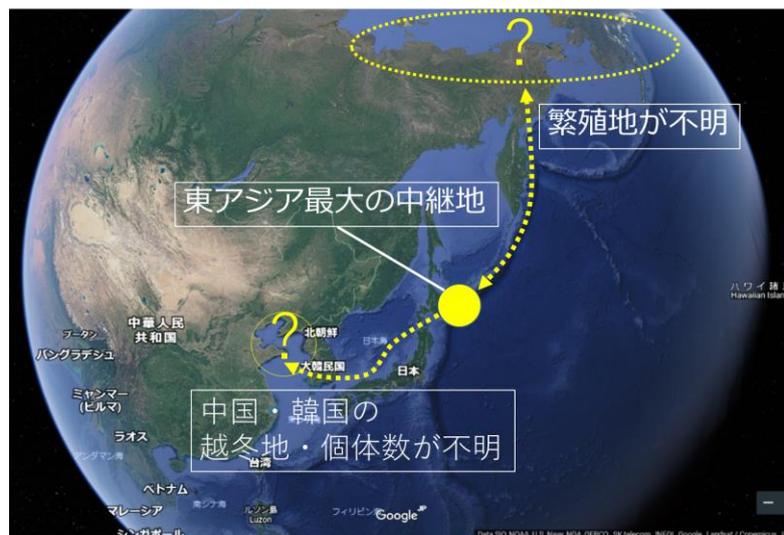


JOGA 第 22 回集会要旨：コクガンにおける国際共同調査の立ち上げ

澤祐介（バードライフ・インターナショナル東京）

日本を含む東アジアで越冬するコクガン *Branta bernicla* の個体数は、5,000-8,700 羽と推定されており（Wetland International 2012）、繁殖地は主に北極海に面したシベリア東部のレナ川河口、ヤナ川河口で繁殖するとされている（Syroechkovski 2006）。近年、道東コクガンネットワークを中心とした調査で、秋の渡り時期には北海道東部を中心に 8,600 羽ものコクガンが飛来することが明らかになり、道東地域は東アジアのほぼ全個体が集中する一大中継地となっていることがわかってきた。

一方で、日本の中継地、越冬地以外の東アジアでの分布情報は乏しく、中国・韓国における越冬地や個体数はほとんど調べられていない。さらに、東アジアに飛来する個体群の繁殖地も断片的な情報があるのみで（Shimada et al. 2017）、詳細は不明な部分が多い。そのため、東アジアの越冬個体群の生態や渡りルートを解明するためには、日本を起点とした調査研究が必須となる。



■ コクガン国際共同調査立ち上げの経緯

コクガン共同調査のきっかけは、Shimada et al.により 2014 年に宮城県で標識されたコクガンが翌 2015 年にロシア・レナデルタ周辺で回収されたことによる（Shimada et al. 2017）。そこから雁の里親友の会により、ロシア科学アカデミーと 2016 年のレナデルタでのコクガン繁殖地での標識調査が企画された。この調査では 21 羽のコクガンに標識され、そのうち 1 羽が同年 12 月にアメリカ・カリフォルニア州で回収された。このことによりアメリカのコクガン研究者（David Ward 氏、USGS 所属）とつながり、情報交換が開始された。

さらに、2017 年 1 月に開催された東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パート

ナーシップの第10回パートナー会議では、ガンカモ作業部会の分科会で中国、韓国、ロシア、アメリカの研究者に対し、コクガンの研究を進めるための協力体制の構築を呼びかけた。これに中国の研究者（Cao Lei 氏、中国生態科学院所属）が応じてくれた。これらを踏まえ、2017年3月にコクガン専門家会合を函館で開催し、日、ロ、中、米の関係者を交え、東アジアのコクガンの課題と必要な研究について優先順位をつけ、役割分担を整理することで共同調査を立ち上げることとなった。

今回、コクガンの共同調査立ち上げのキーポイントとなったのは、以下の点であると考えている。今後、同様に国際的な共同調査立ち上げの際の参考にされたい。

- ・ 嶋田さんや道東コクガンネットワークの調査素地が日本にあったこと
- ・ 国際会議での呼びかけの機会を活用したこと
- ・ コクガンについてだけ話し合う場を設定し、会議の中で具体的なアクション、役割を明確にしたこと